

# 親子の暴力事件 過去5年最多ペース

富山県内で今年1~6月、親子同士で発生した傷害、暴行事件の摘発件数が13件となり、過去5年で最多のペースとなっている。だが、県警への取材で17日までに分かった。13件のうち、成人した子が親に暴力を振るったのは9件で、専門家や関係者は、経済的理由や晩婚化によって、親から自立できない人が増えていることが背景にあるとみている。

県警によると、2011年から15年にかけて摘発し

た親子間の傷害、暴行事件は、年間5~15件で推移して

いる。今年6月までの13件を加えた計60件のうち、39件は成人した子が親に暴力を振った事件だった。

6月2日には、富山市の無職男(20)が同市内の中路上で母親(51)の首を絞めた疑いで富山中央署に現行犯逮捕された。同署によると、言い争いから暴行につながった。

富山県家庭問題相談センターには、「子どもに殴られた」といった相談が月に5~6件寄せられ多くは、子が経済的に自立できていない事情がある。子が非正規雇用のために将来の展望を描けないとして家庭内が

きくじゅく、さざいなことでも「論になるケースが目立つようだ。同センターの斎藤好代表理事によると、相談に来るのは手の施しようがないってからが多い。加えて、相談に来ても、家庭の問題を打ち明けるのは恥ずかしいとして詳しい事情を話すのをためらう人もいるといふ。

摘発件数が増えている要因として、警察が従来より家庭問題に踏み込み、積極的に立てていてることも挙げられる。全国的に家族間の凶悪事件が多発したためだ。

富山県内で2014年15年に起きた殺人事件は、いずれも同居する家族が加害者、被害者だった。捜査開

組んだいた県弁護士会の足立政美弁護士は、「親せきや住民同士の父兄が希薄となり、問題を解決するには法律を利用するのが望ましい」と語る。対策として、深刻な状況に陥る前に、専門知識を持つ人に相談することが重要だとしている。

名古屋市中区のビルで15組傘下組織の幹部が射殺された事件で、愛知県警中

## 覚醒剤巡るトラブルか

名古屋駅射殺事件 使用容疑で男逮捕

係者は「家庭内の問題を把握するのは難しく、急に工スカレートする場合がある」と話し、重大な事件が発展する前に手を打つことが重要としている。

長く家庭間の問題を取り

## あいの風とやま鉄道 乗客2千

あいの風とやま

年3月の開業から

で記念イベントが

来線対策協議会の開

月早い達成で、同

発など利用促進策が

月の主婦渡辺あゆみ

之社長から記念品が

渡辺さんは長男役

ちゃん(5)次男

にくす玉を割り、半

切符と菓子の土産

ら花束を受け取った

は電車に乗れてから

も遊びに行く

い」と話した。

同鉄道は「日平均

乗車しており、協議会

り約7~7%多い」。

駅で新しい旅客案内

とに触れ「今後も利

用される鉄道にしていき



射水の渡辺さんに記念品 予想より1カ月早く

上半身を中心刺し傷が數十ヶ所あり、一部は肺まで達していた。

少年はこれまで調べ

発見。少年は同日夜に自首し、県警は6日、死体遺棄容疑で逮捕していた。

ユビックを発見、押収した。

今月5日夕、散歩中の男

性が川で進士さんの遺体を

発見。少年は同日夜に自首し、県警は6日、死体遺棄容疑で逮捕していた。

# 殺人容疑で高2再逮捕

茨城女性遺棄「ただ刺したかった」

茨城県龍ケ崎市の方で司

県警によると「間違いあシユビック」と呼ばれる魚

果、死因は不詳。遺体には

離れた神社周辺でフィッシング

といふ。「自転車に乗っていた進士さんに後ろから駆け足で接近し、左側から背中付近を刺した」との趣旨の説明をして、「被害者の人生を閉ざしてしまったことを反省しています」とも供述している。司法解剖の結果

とおり、「日本海みそ」